

もつと空中散布の仲間を増やしたい

無人航空機運営協議会

会長 高橋 正好さん

無人航空機運営協議会会長の高橋正好さんに、今後のヘリコプターによる農薬散布やドローンの活用状況を聞きました。

今年の利用状況はどうでしたか

今年の散布面積は延べ約950畝です。町内の引受面積は350畝で、2回散布するので約700畝を利用いただいています。残りは雲南市になります。

どのような体制で

当初はJAの職員でスタートし、オペレーターの安定確保のため、認定農業者や建設業従事者に免許を取得していただき、人数を増やしてきました。有資格者は15名になりました。

明日を拓く

だが、実際に携わっている人は8名程度で慢性的な人手不足状態です。

これからは、午前中に農薬散布を済ませ、午後は自分の仕事ができるような体制整備も必要だと思っています。

現在の課題は

農家からは適期防除を求められます。5月の連休にいつせいに田植をした水稻の適期は標高差を考慮しても、せいぜい1週間しかありません。約400畝すべての水田を1週間で処理するために、オペレーター一人ひとりの技量を高めるなど、相当の努力を伴います。

小田小学校区ではドローンを1機導入し、除草剤散布や防除を始められました。散布料は協議会に納めていただきますが、協議会が機材のチャーター料と人件費を払うので、経費は圧縮されます。

人手不足対策を含め、他の法人とも同様の連携を進め、働き場を提供していきたいと考えています。受講料は協議会が補

助していますので、散布作業に協力できる人があれば、資格取得を考えていただきたいです。

今後の計画は

組織の今後ですが、JAとの関係や税法上の問題などがあり、法人化は避けて通れません。年内法人化を目指し、定款などの協議を行っています。

農業法人の成功事例は少ないと聞いています。農薬散布事業を元気にしていきたい、雇用を創出したいというのが私たちの夢です。



空中散布の今後を語られた高橋正好さん

今月の表紙写真



お盆前の下赤名で農薬散布用無人ヘリコプターのエンジン音が響いていました。ヘリ防除は、短時間の一斉防除が可能で効果が高いとあって需要は増していくばかりです。現在ヘリ2機とドローン2機で、要員は12名必要です。スタッフ不足で超多忙です。

写真の操縦者は、大しめ縄創作館の棟梁さん。しめ縄を各地に納品する合間を縫っての散布でした。見かねた大國主命が、救いの手を差し伸べてくれないものだろうか。

編集後記

朝晩、めっきり涼しくなってきました。協議会が終了した頃には、稲穂もしっかり熟れ色がつき、秋晴れのもと一斉に稲刈りが始まりました。今年の我が家の出来は、梅雨前の低温が影響してか、少し悪かったように思います。

この時期になると気になるのは台風の到来です。近年は、温暖化の影響で勢力が強くなり、上陸すると甚大な被害をもたらしています。今年も台風15号が首都圏を直撃し、千葉県では長期にわたる停電で、住民は大きな負担を強いられました。停電対策という新たな検討課題が浮き彫りとなり、本町でも備えについて確認し合っておく必要があります。

さて、今議会常任委員会を子育て世代の方が傍聴されました。議員のなり手不足や議会離れがささやかれるなか、こうして議会に興味をもち、足を運んで下さる方がおられるのは、嬉しい限りです。

議会広報編集委員会も新メンバーでスタートします。わかりやすく議会の動きをお伝えし、楽しく読んでいただける広報誌をお届けしたいと思えます。2年間よろしくお願ひします。

議会広報編集委員長 安部 丘